



Pachinko Chain Store Association

PCSA 提言

『パチンコホール禁煙・完全分煙化の取り組みのお願い』

■ 目的

近年、パチンコへの参加者数は減少の一途を辿っています。低玉貸し営業の普及により下げ止まったかに思われた参加者数ですが、ここに来てまた下げ始めた実感しています。減少する参加者数に歯止めをかけ、更には増やすことは、業界全体として取り組まなければならない喫緊の課題であります。

そのためには、離反者層及び新規顧客の取り込みは必須であることは申すまでもありません。各種アンケート調査によると、パチンコに行かない最大の理由が煙草の煙・臭いであることが実証されており、このイメージを取り除き新規顧客の取り込むことが必要です。

また、世界的な流れの中で健康増進法、労働安全衛生法に基づき、そう遠くない将来パチンコホールも禁煙化されることは避けられないでしょう。

だからこそ先手を打ち、ホール5団体が丸となり、全パチンコホールが禁煙もしくは完全分煙に向けての取り組みを開始することを提言いたします。

■ 取り組み

日本全国の全ホールにおいて、平成23年4月1日より、禁煙もしくは完全分煙を実施するための行動を始める。

- ① パチンコ業界の禁煙に対する取組について広報活動、啓蒙活動を実施し、一般社会に広くアピールすることにより、イメージアップを図る。
- ② 厚生労働省、たばこ産業業界に禁煙・分煙のための特別融資、補助金並びに助成金等の交付を働きかける。
- ③ リニューアル、グランドオープン時に、禁煙もしくは完全分煙ホールにする事を促進する。

■ メリット

- ① パチンコ業界のイメージアップが図れ、新規顧客の開拓ができる。
- ② お客様はもとよりホールスタッフの受動喫煙防止ができる。
- ③ スタッフ採用の幅が広がる。
- ④ 空調・煙草回収装置等設備費の抑制ができる。
- ⑤ 煙草の回収、清掃に係わるオペレーションコストの抑制ができる。

■ デメリット

- ① 喫煙客が一時的に離反する可能性がある。
- ② 新たな設備投資が必要になる。

平成22年8月19日

一般社団法人パチンコ・チェーンストア協会

代表理事 加藤 英則

